

## 5・18 沖縄連帯のつどいでのあいさつ

沖縄連帯のつどいにご参加の皆さん、こんにちは。県会議員の斉藤信でございます。日本共産党を代表して心からの連帯のあいさつを送ります。

沖縄のたたかいから学ぶべき課題について3つの点でお話したいと思います。

第一は、沖縄の実態にこそ、憲法無視、安倍政権の強権政治の姿が示されていることです。昨日の岩手日報の論説が、「沖縄復帰47年—終わらぬ戦後の象徴」と題して、「アメリカ占領下の1953年、土地の強制収用によって、『銃剣とブルドーザー』と称される強圧的な手法で軍用地を拡大した。小学校への米戦闘機の墜落事故や米兵による少女所暴行殺害事件に触れ、復帰から47年。沖縄は、憲法の理念と現実とのギャップに依然として苦悩を強いられている。それは決して沖縄だけの問題ではない」と指摘していました。

この間、沖縄知事選挙での玉城デニー氏の圧勝、辺野古米軍基地建設の是非を問う県民投票・72%の審判、そして4月21日投票の沖縄3区衆院補選での圧勝と、県民の審判は明確に示されましたが、安倍政権は、まったく聞く耳を持たず、辺野古への土砂投入を続けています。憲法と民主主義を無視し強権政治を続ける安倍政権を打倒することが解決の道ではないでしょうか。

第二に、辺野古への米軍新基地建設は絶対にできないということです。

安倍政権は辺野古への土砂投入を続けていますが、辺野古側を埋め立てたとしても全体のわずか6%にしかすぎません。94%を占める大浦湾側を埋め立てなければなりません。ここは軟弱地盤で、知事許可が必要な設計の変更が必要になり、全く見通しがないのであります。

第三に、3度にわたって沖縄の県民が勝利を収めてきた教訓を、私たちのたたかいに生かすことです。沖縄県民の勝利の要因は、「オール沖縄」の結束、「島ぐるみ」の団結にあります。同時に「沖縄と本土の連帯」にこそ勝利の展望があります。沖縄県民のたたかいによって、本土の世論が大きく変わってきました。最近の世論調査では「辺野古埋め立て反対」が読売で47%、毎日で52%、朝日で68%、共同通信でも68%と多数となっています。

岩手県議会は、全国に先駆けて「日米地位協定の見直し」「辺野古への土砂投入の中止」を求める意見書を採択しました。

4月の衆院3区補欠選挙では、共産党、立憲民主党、国民民主党、自由党、社民党のすべての党首がそろって屋良さんの必勝を誓い合いました。辺野古新基地ストップは、野党共闘の旗印となりました。

沖縄問題の解決の方向は、安倍政権を倒すことです。「沖縄と本土の連帯」、そして「市民と野党の共闘」—この力で来るべき参院選挙で安倍政権にきっぱりとした審判を下そうではありませんか。

岩手における「市民と野党の共闘」の現状は、野党の統一候補は横沢たかのりさん一人となりました。本気の共闘の実現へあと一步のところですよ。日本共産党は、誠実に、全力を上げて「市民と野党の共闘」の勝利のために奮闘する決意を述べて、連帯のあいさつといたします。皆さん。頑張りましょう。